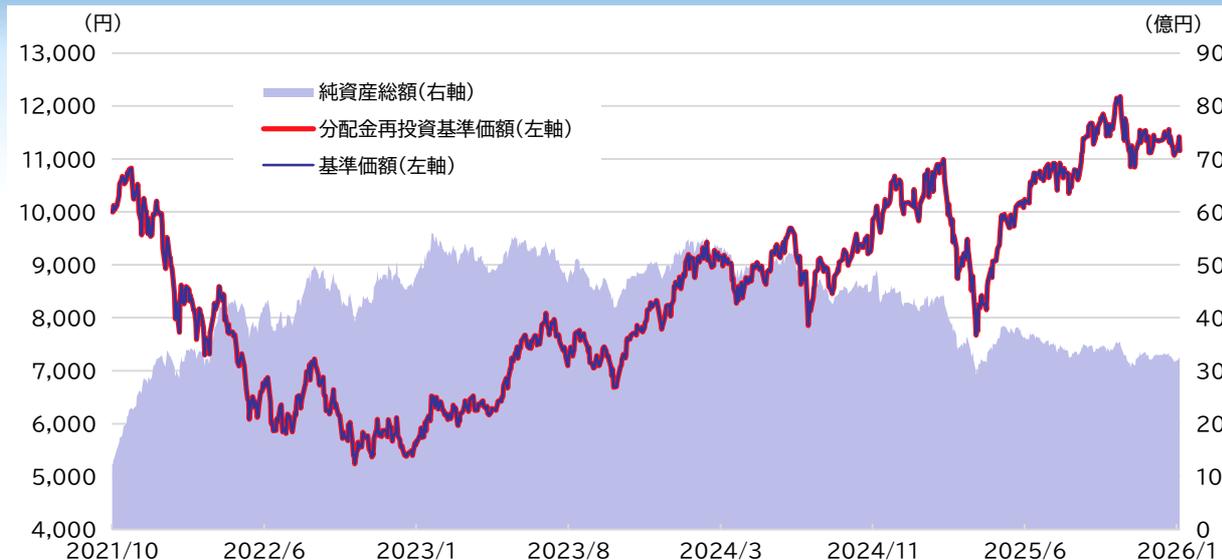


米国ネクストビジョンファンド (為替ヘッジあり) / (為替ヘッジなし)

追加型投信 / 海外 / 株式

ファンドの運用実績 — 為替ヘッジあり

設定来の基準価額の推移	基準価額 (1万口当たり)	純資産総額
	11,155円	31.7億円



騰落率

	1か月前	3か月前	6か月前	1年前	3年前	設定来
分配金再投資基準価額	▲ 1.58%	▲ 7.41%	2.85%	5.93%	81.50%	11.55%
参考指数	1.00%	2.47%	10.20%	16.26%	81.02%	63.28%

最近5期の分配金の推移

2023/10/17	0円
2024/04/17	0円
2024/10/17	0円
2025/04/17	0円
2025/10/17	0円
設定来合計	0円

ポートフォリオ構成比率

JPモルガン・ファンズ-USテクノロジー・ファンド (1クラス)(円建て、円ヘッジ)	98.4%
マネー・リクイディティ・マザーファンド	0.2%
短期金融商品・その他	1.4%

■設定来の基準価額の推移

- 基準価額は1万口当たり、信託報酬控除後です。当ファンドの実質的な信託報酬は、投資対象ファンドの信託報酬を間接的にご負担いただくこととなりますので、作成基準日現在、純資産総額に年率1.948%程度を乗じて得た額となります。
- 分配金再投資基準価額は、分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。
- グラフは過去の実績であり、将来の成果を示唆または保証するものではありません。

■騰落率

- 騰落率は、1か月前、3か月前、6か月前、1年前、3年前の各月の月末および設定日との比較です。参考指数の騰落率は、当該日前営業日の現地終値を基に算出しております。
- 分配金再投資基準価額の設定来騰落率は、1万口当たりの当初設定元本との比較です。
- 参考指数は、S&P500トータルリターン指数(米ドル建て)です。
- 参考指数の騰落率は、Bloombergのデータを基にSBI岡三アセットマネジメントが算出しております。

■最近5期の分配金の推移

- 分配金は1万口当たり、税引前です。運用状況等によっては分配金額が変わる場合、或いは分配金が支払われない場合があります。

■ポートフォリオ構成比率

- 構成比率は小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

ファンドの運用実績 — 為替ヘッジなし

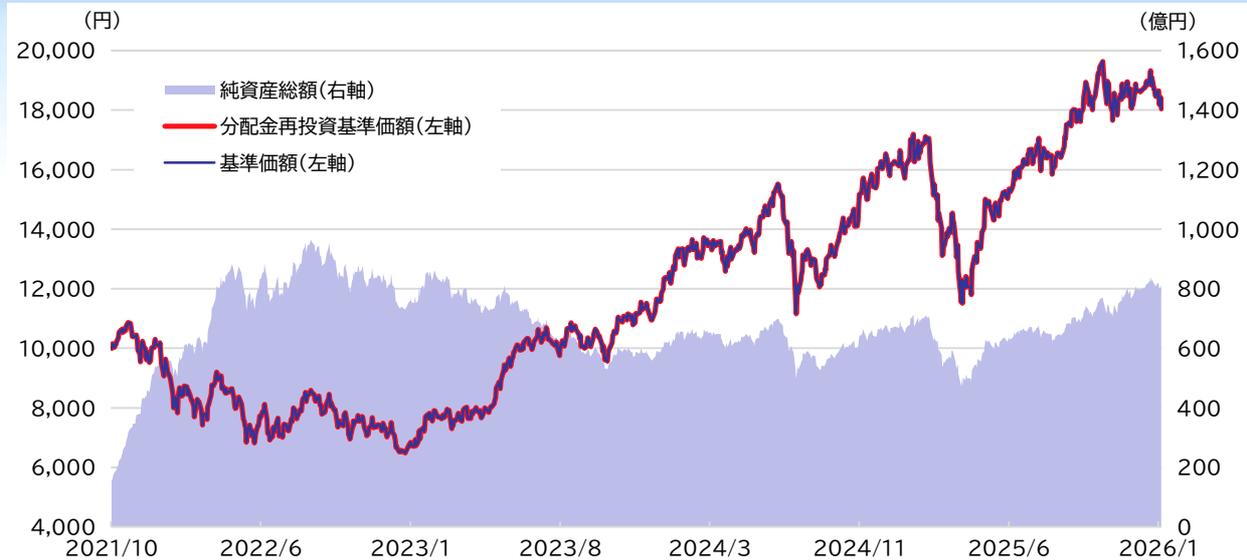
設定来の基準価額の推移

基準価額 (1万口当たり)

18,038円

純資産総額

794.2億円



騰落率

	1カ月前	3カ月前	6カ月前	1年前	3年前	設定来
分配金再投資基準価額	▲ 3.08%	▲ 7.28%	7.50%	9.04%	145.88%	80.38%
参考指数	▲ 0.87%	2.18%	13.35%	15.68%	113.20%	120.63%

最近5期の分配金の推移

2023/10/17	0円
2024/04/17	0円
2024/10/17	0円
2025/04/17	0円
2025/10/17	0円
設定来合計	0円

ポートフォリオ構成比率

JPモルガン・ファンズ-USテクノロジー・ファンド (Iクラス)(円建て)	98.0%
マネー・リクイディティ・マザーファンド	0.2%
短期金融商品・その他	1.8%

■設定来の基準価額の推移

- 基準価額は1万口当たり、信託報酬控除後です。当ファンドの実質的な信託報酬は、投資対象ファンドの信託報酬を間接的にご負担いただくこととなりますので、作成基準日現在、純資産総額に年率1.948%程度を乗じて得た額となります。
- 分配金再投資基準価額は、分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。
- グラフは過去の実績であり、将来の成果を示唆または保証するものではありません。

■騰落率

- 騰落率は、1カ月前、3カ月前、6カ月前、1年前、3年前の各月の月末および設定日との比較です。
- 分配金再投資基準価額の設定来騰落率は、1万口当たりの当初設定元本との比較です。
- 参考指数は、S&P500トータルリターン指数[円換算後]です。
- 参考指数は、当該日前営業日の現地終値に為替レート(対顧客電信売買相場の当日(東京)の仲値)を乗じて算出しております。
- 参考指数の騰落率は、Bloombergのデータを基にSBI岡三アセットマネジメントが算出しております。

■最近5期の分配金の推移

- 分配金は1万口当たり、税引前です。運用状況等によっては分配金額が変わる場合、或いは分配金が支払われない場合があります。

■ポートフォリオ構成比率

- 構成比率は小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

JPモルガン・ファンズ – USテクノロジー・ファンドの状況(1)

組入上位10銘柄 (組入銘柄数 60)

銘柄名	業種	国・地域	比率	EPS推移(暦年) (単位:米ドル)	株価推移(直近1年、日次) (単位:米ドル)
1 アルファベット	テクノロジー (デジタルサービス)	アメリカ	4.8%		
<p>アルファベット(Alphabet Inc.)は持株会社。子会社を通じ、ウェブベースの検索、広告、地図、ソフトウェア・アプリケーション、モバイルオペレーティングシステム、消費者コンテンツ、業務用ソリューション、eコマース、ハードウェア製品などを提供する。</p>					
2 エヌビディア	テクノロジー (半導体)	アメリカ	4.6%		
<p>エヌビディア(NVIDIA Corporation)は3次元(3D)グラフィックスプロセッサと関連ソフトウェアの設計・開発・販売会社。同社の製品は、主要パソコン向けに双方向3Dグラフィックスを提供する。</p>					
3 ラムリサーチ	テクノロジー (テクノロジー機器)	アメリカ	4.4%		
<p>ラムリサーチ(Lam Research Corporation)は、IC製造用の半導体処理装置メーカー。アフターサービスも提供する。製品は、シリコンウエハー上に付着させた特殊フィルムの一部をエッチングして回路を設計するために使われる。世界で製品を販売。</p>					
4 テスラ	一般消費財・サービス	アメリカ	4.0%		
<p>テスラ(Tesla Inc.)は高性能電気自動車と電気自動車パワートレイン部品の設計・製造・販売会社。独自の販売網を保有し、電気パワートレイン部品の他の自動車メーカーに販売する。</p>					
5 メタ・プラットフォームズ	テクノロジー (デジタルサービス)	アメリカ	3.9%		
<p>メタ・プラットフォームズ(Meta Platforms, Inc.)はソーシャルテクノロジー会社。ユーザーをつなぎ、コミュニティを見つけ、事業の成長を支援するアプリケーションおよび技術を構築する。広告、拡張機能化、仮想現実も手掛ける。</p>					

※EPS推移は、1月30日時点で暦年2025年が発表値となったものは2025年を起点として2028年予想まで表示。暦年2025年が予想値のものは2024年を起点として2027年予想まで表示。

※比率は、「JPモルガン・ファンズ-USテクノロジー・ファンド」の純資産総額に対する割合です。

※業種は、原則としてICB分類に基づき分類しています。

※J.P.モルガン・アセット・マネジメントのデータおよびBloombergデータを基にSBI岡三アセットマネジメントが作成しております。

JPモルガン・ファンズ – USテクノロジー・ファンドの状況(2)

組入上位10銘柄 (組入銘柄数 60)

銘柄名	業種	国・地域	比率	EPS推移(暦年) (単位:米ドル、TSMCは台湾ドル)	株価推移(直近1年、日次) (単位:米ドル、TSMCは台湾ドル)
6 台湾セミコンダクター (TSMC)	テクノロジー (半導体)	台湾	3.8%		
<p>台湾セミコンダクター(TSMC)(Taiwan Semiconductor Manufacturing Company, Ltd.)は半導体メーカー。ウエハー製造、プロービング、組み立て、検査のほか、マスクの製造、設計サービスを提供する。同社の集積回路(IC)はコンピューター、通信機器、消費者向け電子製品、自動車、工業機器の各産業で使用される。</p>					
7 テイクツー・インタラクティブ・ソフトウェア	一般消費財・サービス	アメリカ	3.7%		
<p>テイクツー・インタラクティブ・ソフトウェア(Take-Two Interactive Software, Inc.)はビデオゲームメーカー。インタラクティブ・エンターテインメント・ソフトウェア・ゲームと周辺機器を製造する。コンソールシステム、ハンドヘルド型ゲームシステム、およびパソコン用製品を手掛ける。小売店、デジタルダウンロード、オンライン、クラウドストリーミングサービスを通じて製品を販売。</p>					
8 スノーflake	テクノロジー (コンピュータ・サービス)	アメリカ	3.5%		
<p>スノーflake(Snowflake Inc.)はソフトウェア・ソリューション会社。データベースアーキテクチャ、データウェアハウス、クエリ最適化、並列化ソリューションを開発する。世界各地で事業を展開。</p>					
9 ブロードコム	テクノロジー (半導体)	アメリカ	3.3%		
<p>ブロードコム(Broadcom Inc.)は半導体・インフラソフトウェアソリューションメーカー。ストレージ・アダプター、コントローラー、ネットワーク・プロセッサ、モーションコントロール・エンコーダ製品、光センサーのほか、複雑なハイブリッド環境を最新化、最適化、および安全を確保するためのインフラやセキュリティソフトウェアを提供する。世界各地で事業を展開。</p>					
10 シエナ	通信	アメリカ	3.3%		
<p>シエナ(CIENA Corporation)は光ネットワーク機器メーカー。通信ネットワークのプラットフォームやソフトウェアの開発・販売のほか、各種専門サービスの提供に従事。ブロードバンドアクセス、データ・光通信プラットフォーム、ソフトウェアツール、グローバルネットワークの各種サービスを、世界各国の通信サービスプロバイダー、ケーブルテレビ会社・ケーブルテレビ運営会社(MSO)、法人・政府ネットワークに向けて展開。</p>					

※EPS推移は、1月30日時点で暦年2025年が発表値となったものは2025年を起点として2028年予想まで表示。暦年2025年が予想値のものは2024年を起点として2027年予想まで表示。
 ※比率は、「JPモルガン・ファンズ–USテクノロジー・ファンド」の純資産総額に対する割合です。
 ※業種は、原則としてICB分類に基づき分類しています。
 ※J.P.モルガン・アセット・マネジメントのデータおよびBloombergデータを基にSBI岡三アセットマネジメントが作成しております。

JPモルガン・ファンズ – USテクノロジー・ファンドの状況(3)

組入業種

	業種	比率
1	テクノロジー	64.3%
2	一般消費財・サービス	17.2%
3	金融	6.1%
4	通信	5.7%
5	資本財・サービス	2.4%
6	ヘルスケア	2.0%
7	エネルギー	0.7%
	現金等	1.5%
	合計	100.0%



	テクノロジー業種のサブセクター	比率
1	半導体	19.9%
2	デジタルサービス	15.9%
3	ソフトウェア	14.8%
4	テクノロジー機器	7.2%
5	コンピュータ・サービス	4.5%
6	コンピュータ・ハードウェア	1.2%
7	電子部品	0.7%
	合計	64.3%

企業規模(株式時価総額)別構成比率

企業規模	比率
大型株 (500億米ドル超)	71.1%
中型株 (200億米ドル超-500億米ドル以下)	14.6%
中型株 (100億米ドル超-200億米ドル以下)	7.1%
小型株 (50億米ドル超-100億米ドル以下)	5.2%
小型株 (50億米ドル以下)	0.6%

※業種は、原則としてICB分類に基づき分類しております。

※時価総額の区分は、本資料独自のものです。また、将来変更される場合があります。

※比率は、「JPモルガン・ファンズ – USテクノロジー・ファンド」の純資産に対する割合です。小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

※J.P.モルガン・アセット・マネジメントのデータを基にSBI岡三アセットマネジメントが作成しております。

2026年1月 組入上位10銘柄の主なニュース

日付	銘柄	ニュース
1月28日	ラム・リサーチ	<p>ラム・リサーチは1月28日、2025年12月期の第2四半期決算を発表した。売上高は53.4億米ドルとなり、事前予想の52.6億米ドルを上回りました。また、調整後1株当たり利益(EPS)は1.27米ドルと、こちらも事前予想の1.17米ドルを上回りました。</p> <p>2026年3月期の第3四半期の売上高見通しに関して会社側は、57.0億米ドル(±3億米ドル)を見込んでおり、アナリスト予想の53.4億米ドルを上回りました。また、会社側は調整後EPSの見通しについては、1.35米ドル(±0.1米ドル)を見込んでおり、これについてもアナリスト予想の1.20米ドルを上回りました。</p> <p>社長兼最高経営責任者(CEO)であるティム・アーチャー氏は、「同社は再び力強い四半期を達成し、記録的な年を締めくくった」と述べ、「2026年を迎えるにあたり、同社の拡大する製品・サービス群は、市場がより小型で複雑な三次元デバイスやパッケージへ移行することを可能にしている。」と自信を示しました。</p>

※上記は、個別銘柄の推奨を目的として示したのではなく、当該銘柄の株価の上昇および投資先ファンドへの組入れを保証するものではありません。また、組入銘柄すべてのニュースを網羅しているわけではありません。巻末の<ご注意>をご確認ください。

(出所)各種報道等

※市場環境等についての評価、分析等は、将来の運用成果を保証するものではありません。

ファンドマネージャーのコメント

※以下は、当ファンドが高位に組入れております「JPモルガン・ファンズーUSテクノロジー・ファンド」のファンドマネージャーコメントを基に作成しています。

<投資環境>

1月の米国株式市場は小幅に上昇しました。月初は、半導体関連株の上昇や新年入りに伴う新たな投資資金の流入への期待感から、上昇しました。中旬は下落しました。グリーンランドの領有を巡ってトランプ大統領が欧州に対して強硬な姿勢を示すと、米国株・ドル・米国債が同時に売られるトリプル安的な動きが見られました。下旬は上昇しました。トランプ大統領による欧州への強硬姿勢が和らいだことに加えて、トランプ大統領と北大西洋条約機構(NATO)のルッテ事務総長がグリーンランドなどに関する将来の合意の枠組み作りで折り合ったという見方などから、警戒感が和らぎました。発表された企業業績の内容も総じて堅調でした。

1月のドル/円相場は下落(ドル安・円高)しました。前半は横ばい圏で推移しましたが、衆議院の解散の可能性が報じられると、市場では高市トレードと呼ばれる動きが再開し、株高・円安・債券安が進むという見方が広まったことから、ドル/円は上昇しました。後半は、中央銀行などが市場参加者に相場水準を尋ねるレートチェックを日銀、ニューヨーク連銀がそれぞれ実施したと報じられると、為替介入の可能性が強くなり意識され、ドル/円は159円台から152円台に下落しました。その後は、米国のベッセント財務長官が為替介入を否定したことなどから、ドル/円は下げ幅を小幅に縮小しました。

<運用経過>

1月は、業種でテクノロジーおよび一般消費財・サービスを中心とするポートフォリオを維持しつつ、銘柄の入替えやウェイト調整を行いました。業種別で見ますと、テクノロジーにおける銘柄選択がマイナスに影響した一方、資本財・サービスにおける銘柄選択がプラス寄与となりました。個別銘柄ではオンラインゲーム企業などへの投資がマイナスに影響した一方で、半導体装置メーカーなどへの投資がプラスに寄与しました。

<今後の運用方針>

運用チームでは、引き続き、経済のファンダメンタルズ(基礎的条件)と企業業績を注視しています。米国株式市場は依然として堅調に推移していますが、人工知能(AI)やテクノロジー関連銘柄を中心に上昇しており、指数の偏りが大きい状況です。加えて、地政学的な緊張や米国および世界の財政政策の変化は、市場の変動要因となる可能性があります。当社では引き続き高い確信度を持つ銘柄に注力し、市場の歪みを利用した魅力的な投資機会の発掘に努めてまいります。

※今後の運用方針等は、将来の市場環境の変動等により変更される場合があります。
また、市場環境等についての評価、分析等は、将来の運用成果を保証するものではありません。

ファンドの特色

1 以下の投資信託証券への投資を通じて、主として米国のテクノロジー関連企業の株式に投資します。

米国ネクストビジョンファンド(為替ヘッジあり)

- JPモルガン・ファンズーUSテクノロジー・ファンド(Iクラス) (円建て、円ヘッジ)
実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行い、為替変動リスクの低減を図ります。
<運用会社>J.P. モルガン・インベストメント・マネージメント・インク(米国法人)
- マネー・リクイディティ・マザーファンド

米国ネクストビジョンファンド(為替ヘッジなし)

- JPモルガン・ファンズーUSテクノロジー・ファンド(Iクラス) (円建て)
実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。
<運用会社>J.P. モルガン・インベストメント・マネージメント・インク(米国法人)
- マネー・リクイディティ・マザーファンド

2 ポートフォリオの構築にあたっては、ファンダメンタルズ分析を用いたボトムアップリサーチに基づき銘柄を選定します。また、環境や社会要因についてプラスの特性を持ち、良好なガバナンスを行うと評価する企業に投資を行うために、独自のESGスコアリング手法や外部データを活用します。

3 JPモルガン・ファンズーUSテクノロジー・ファンド(Iクラス) (円建て、円ヘッジ) / (円建て) の組入比率は、高位に保つことを基本とします。

資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。

● 分配方針

年2回、4月および10月の各月の17日(休業日の場合は翌営業日)に決算を行い、原則として、以下の方針に基づき、収益分配を行います。

- 分配対象収益の範囲は、繰越分を含めた経費控除後の配当等収益と売買益(評価益を含みます。)等の全額とします。繰越分を含めた経費控除後の配当等収益には、マザーファンドの配当等収益のうち、投資信託財産に帰属すべき配当等収益を含むものとします。
- 分配金額は、委託会社が分配可能額、基準価額水準等を勘案のうえ決定します。

※分配可能額が少額の場合や基準価額水準によっては、収益分配を行わないことがあります。

※将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

投資リスク(1)

■ 基準価額の変動要因

投資者の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

投資信託は預貯金と異なります。投資信託財産に生じた利益及び損失は、すべて投資者の皆さまに帰属します。

ファンドは、米国の株式等値動きのある有価証券等に投資しますので、組入れた有価証券等の価格の下落等の影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、外貨建資産に投資しますので、為替相場の変動により損失を被ることがあります。

● 主な変動要因

株価変動リスク

株式の価格は、発行会社の業績や財務状況、株式市場の需給、政治・経済状況等の影響により変動します。

為替変動リスク

<為替ヘッジあり>

外貨建資産は、為替相場の変動により円換算額が変動します。投資対象通貨に対する円高により、外貨建資産の円換算額は減少し、円安により、外貨建資産の円換算額は増加します。実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行い、為替変動リスクの低減を目指しますが、為替ヘッジの対象となる外貨建資産は市況動向により変動することから、為替変動リスクを完全にヘッジすることはできません。

<為替ヘッジなし>

外貨建資産は、為替相場の変動により円換算額が変動します。投資対象通貨に対する円高により、外貨建資産の円換算額は減少し、円安により、外貨建資産の円換算額は増加します。

信用リスク

有価証券等の発行体の破綻や財務状況の悪化、および有価証券等の発行体の財務状況に関する外部評価の変化等の影響により、投資した有価証券等の価格が大きく下落することや、投資資金が回収不能となることがあります。

● その他の変動要因

カントリーリスク

※基準価額の変動要因は上記のリスクに限定されるものではありません。

投資リスク(2)

■ その他の留意点

- ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリングオフ）の適用はありません。
- 投資信託は預金商品や保険商品ではなく、預金保険、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関が取り扱う投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。
- ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要がある場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金申込の受付が中止となる可能性、換金代金の支払が遅延する可能性があります。
- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合があるため、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。また、投資者の購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。

お申込みメモ

購入単位	販売会社が定める単位 ※詳しくは販売会社にご確認下さい。
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額
購入代金	販売会社の定める期日までにお支払い下さい。 ※詳しくは販売会社にご確認下さい。
換金単位	販売会社が定める単位 ※詳しくは販売会社にご確認下さい。
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額
換金代金	換金申込受付日から起算して、原則として7営業日目から販売会社を通じてお支払いします。
申込締切時間	原則として、購入・換金の申込みに係る、販売会社所定の事務手続きが午後3時30分までに完了したものを当日の申込受付分とします。なお、販売会社によっては対応が異なる場合がありますので、詳細は販売会社にご確認ください。
換金制限	ありません。
購入・換金 申込不可日	以下に該当する日は、購入・換金申込の受付を行いません。 ・ニューヨークの取引所の休業日 ・JPモルガン・ファンズーUSテクノロジー・ファンド(クラス)(円建て、円ヘッジ) / (円建て)の管理会社が指定する日
購入・換金 申込受付の 中止及び取消し	投資対象とする投資信託証券にかかる購入・換金申込の受付の中止および取消、取引所における取引の停止、外国為替取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金申込の受付を中止することや、すでに受付けた購入・換金申込の受付を取消することがあります。
スイッチング (乗換え)	各ファンド間でのスイッチングが可能です。 ※スイッチングの取扱いは、販売会社によって異なります。詳しくは販売会社にご確認下さい。
信託期間	2045年10月16日まで(2021年10月25日設定) ただし、投資者に有利である場合等は、信託期間を延長することがあります。
繰上償還	各ファンド受益権口数が10億口を下回ることとなった場合、やむを得ない事情が発生した場合等には繰上償還となることがあります。
決算日	毎年4月17日および10月17日(休業日の場合は翌営業日)
収益分配	年2回、収益分配方針に基づいて収益の分配を行います。 「分配金再投資コース」の場合、収益分配金は、税金を差し引いた後、決算日の基準価額で再投資します。
信託金の限度額	各ファンド5,000億円
公告	原則として、電子公告の方法により行い、次のアドレスに掲載します。 https://www.sbiokasan-am.co.jp
運用報告書	毎決算時および償還時に交付運用報告書を作成し、販売会社を通じて交付します。

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用													
購入時手数料	<p>購入金額(購入価額×購入口数)に、販売会社が独自に定める購入時手数料率を乗じて得た額</p> <p>購入時手数料率の上限は、3.3%(税抜3.0%)です。</p> <p>購入時手数料率は変更となる場合があります。</p> <p>各ファンド間でのスイッチング(乗換え)により、同一の販売会社でファンドを買付ける場合には、購入時手数料の一部または全部の割引を受けられる場合があります。</p> <p>詳しくは販売会社にご確認下さい。</p>												
信託財産留保額	ありません。												
投資者が信託財産で間接的に負担する費用													
運用管理費用 (信託報酬)	<p>純資産総額×年率1.298%(税抜1.18%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>配分</th> <th>委託会社</th> <th>年率0.35%(税抜)</th> <th>委託した資金の運用の対価です。</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>販売会社</td> <td>年率0.80%(税抜)</td> <td>運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価です。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>受託会社</td> <td>年率0.03%(税抜)</td> <td>運用財産の管理、委託会社からの指図の実行の対価です。</td> </tr> </tbody> </table>	配分	委託会社	年率0.35%(税抜)	委託した資金の運用の対価です。		販売会社	年率0.80%(税抜)	運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価です。		受託会社	年率0.03%(税抜)	運用財産の管理、委託会社からの指図の実行の対価です。
	配分	委託会社	年率0.35%(税抜)	委託した資金の運用の対価です。									
		販売会社	年率0.80%(税抜)	運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価です。									
	受託会社	年率0.03%(税抜)	運用財産の管理、委託会社からの指図の実行の対価です。										
投資対象とする投資信託証券	<p>JPモルガン・ファンズーUSテクノロジー・ファンド(クラス)(円建て、円ヘッジ) / (円建て)</p> <p>純資産総額×年率0.65%</p>												
実質的な負担	<p>純資産総額×年率1.948%程度</p> <p>実質的な負担とは、ファンドが投資対象とする投資信託証券の信託報酬を含めた報酬です。なお、実質的な運用管理費用(信託報酬)は目安であり、投資信託証券の実際の組入比率により変動します。</p>												
その他費用・手数料	<p>監査費用:純資産総額×年率0.0132%(税抜0.012%)</p> <p>有価証券等の売買に係る売買委託手数料、投資信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、受託会社の立替えた立替金の利息、借入金の利息等を投資信託財産でご負担いただきます。また、投資対象とする投資信託証券に係る前記の費用等、海外における資産の保管等に要する費用等を間接的にご負担いただきます。</p> <p>※運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を示すことはできません。</p>												

※運用管理費用(信託報酬)、監査費用は日々計上され、ファンドの基準価額に反映されます。なお、毎計算期末または信託終了のときに投資信託財産から支払われます。その他費用・手数料(監査費用を除きます。)はその都度、投資信託財産から支払われます。

※ファンドに係る手数料等につきましては、運用状況等により変動する費用があることから、事前に合計金額もしくはその上限額またはこれらの計算方法を示すことはできません。

委託会社および関係法人の概況

委託会社	SBI 岡三アセットマネジメント株式会社 (ファンドの運用の指図を行います。)
	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第370号 加入協会:一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会
受託会社	三井住友信託銀行株式会社 (ファンドの財産の保管及び管理を行います。)

販売会社について

受益権の募集の取扱い、投資信託説明書(交付目論見書)、投資信託説明書(請求目論見書)及び運用報告書の交付の取扱い、解約請求の受付、買取請求の受付・実行、収益分配金、償還金及び解約金の支払事務等を行います。なお、販売会社には取次証券会社が含まれる場合があります。

商号	登録番号	日本証券業協会	加入協会		
			一般社団法人 日本投資 顧問業協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 第二種金融商品 取引業協会
(金融商品取引業者)					
岡三証券株式会社	関東財務局長(金商)第53号	○	○	○	○
岡三にいがた証券株式会社	関東財務局長(金商)第169号	○			
阿波証券株式会社	四国財務局長(金商)第1号	○			
株式会社SBI証券	関東財務局長(金商)第44号	○		○	○
株式会社証券ジャパン	関東財務局長(金商)第170号	○	○		
三晃証券株式会社	関東財務局長(金商)第72号	○			
野畑証券株式会社	東海財務局長(金商)第18号	○			○
武甲証券株式会社	関東財務局長(金商)第154号	○			

<ご注意>

- 本資料はSBI岡三アセットマネジメント株式会社が作成した販売用資料です。購入の申込みに当たっては、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。投資信託説明書(交付目論見書)の交付場所につきましては「販売会社について」でご確認ください。
- 本資料中の運用実績等に関するグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮しておりませんので、投資者の皆様の実質的な投資成果を示すものではありません。
- 本資料の内容は作成基準日のものであり、将来予告なく変更されることがあります。また、市況の変動等により、方針通りの運用が行われない場合もあります。
- 本資料は当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。

委託会社
お問合わせ先

電話番号
03-3516-1300(営業日の9:00~17:00)

ホームページ
<https://www.sbiokasan-am.co.jp>